

## 一筋の心をわたしにお与えください

久し振りに「祈り。ダビデの詩。」先日 A さんに電話すると甲状腺癌の疑いがあると診断され (実はそうではなかったのだが) 詩編 150 編を一気に読んで、悔い改めたとのことであった。人は自分の命が危うくなると (1 節 「わたしは貧しく、乏しい」、祈り、聖書を読むのであろう。自分の貧しさの自覚が神への信頼に導き、神への信頼が自分の貧しさを自覚させる。軍人ダビデは戦場で、そして政治家として、さらに、信仰者として「いのちを晒して」生きたのだろう。ある癌患者 O さんは、K 教会の会員であった次男が教会の礼拝に来ないので、「なぜこんな素晴らしい礼拝にこないのだろう?!」と言われていた。「たぶん、まだ、自分の命が危ういと思っていないのでしょうか。」と私は言ったが、まあ、彼の「信仰告白」に目を通し、他教会で牧師をしていた叔父にただ倣った彼の信仰はその根幹が危ういものであった。主なる神との人格的交わりを欠いていたからである。この詩はまさに、「救いを求める一心な祈り」である。

ここで詩人は切々と神に向かって叫び、祈っている。主なる神である「あなた」と「わたし」の生ける人格的交わりである。唯一神信仰とは哲学的な原理・原則というより、「ただあなたひとり、神」であるという告白なのである。「あれも、これも」「あの神も、この神も」などという平均的日本人が考えもしない世界、日本人が最も敬遠する世界なのであろう。「慈しみ」「憐れみ」が繰り返し登場する。「慈しみ深き、友なるイエスは」である。

### 1. 主よ、と呼び掛け、祈ることができ、呼びかけを聴かれる神がいます

信仰の詩人は、「わたしに耳を傾け、答えてください」「わたしの魂をお守りください」「あなたの僕をお救いください」と懇願する。

1 節の「貧しい」(アーニー「この場合「アイン」)と「わたし」(アーニー「この場合「アレフ」)とは掛詞のように響く。「アーニー アーニー！」

### 2. 「慈しみ」(ヘセド)

2 節で詩人は「あなたの慈しみに生きる者」と言う。3 節では「私に対して恵み深くあってください」と祈る。2 節、4 節(2 回)に「魂」が登場。5 節の「恵み深い」は「良い」という用語。そして、慈しみはヘセド。13 節にも 5 回目のヘセドが来る。「良い」は 17 節で「良いしるし」という形また出て来る。まさに、good! である。

### 3. 信仰告白：「ただあなたひとり、神」

そして、10 節後半に、「ただあなたひとり、神である」との告白に至る。なぜなら、あなたは偉大な方、驚くべき諸々の事をなす方。だから、「ただあなたひとり、神」であるから。

### 4. 一筋の心

あなたの信実の中をわたしは歩むでしょう。私の心があなたのみ名を懼れるに至るまで。これを「一筋に」と翻訳しているが、「一筋に」という用語があるわけではない。「二心を持つことなく」、神の真実一路、神への真実一路である。「心を尽くして」は直訳すると「わたしの神である主人を全心で賛美するでしょう」となる。

5. 主よ、あなたは情け深い神、憐れみに富み、忍耐強く、慈しみとまことに満ちておられる。15 節。「情け深い」、「憐れみに富む」、「忍耐強く」、「慈しみとまことに満ちておられる」暗唱しても良い句である！

### 6. 憐れんでください

主は憐れみに富むお方、慈しみとまことの神であるから、そのように、私を憐れんで下さいと願う。あなたの「僕」にを「はしための息子」と言い換えている。「はしため」は不快語に近いが、あえて言い換える必要があるのだろうか？まあ、「はしための息子」は贖い出されて自由の身になりうる僕ではなく、生涯主人の僕でありつづける人のことである。

以上のように、この詩編は神の「憐れみ」（ヘセド）という用語の繰り返して印象的であり、その神に信頼し、祈り願う一途なものである。それを「ダビデ」の名で謳っている。ある意味で「ダビデ」の名で色々な詩の断片を集めたものであろうか。その意味ではこの詩には一貫性はない。今日で言えば「礼拝式文」のような詩である。そこでは個人の祈りは世界の祈りであり、世界大の祈りは個人の祈りもある。